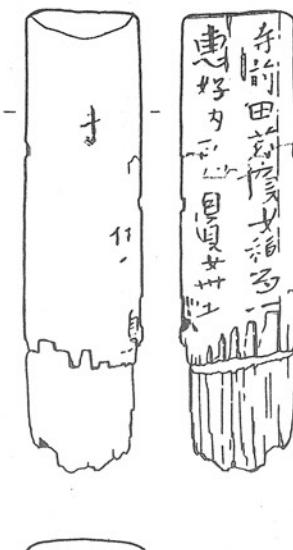




(長 浜)

6 遺跡の年代 奈良時代～鎌倉時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
8 木簡の积文・内容



9 関係文献
滋賀県教育委員会・財滋賀県文化財保護協会『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書』 XIV-1 (一九八七年)
(浜崎悟司)
(137) × 34 × 5 019

- 1 所在地 滋賀県長浜市新庄寺町
- 2 調査期間 一九八六年(昭61)四月～七月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・財滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 浜崎悟司
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
神照寺坊遺跡は長浜平野の北部、姉川南岸の沖積平野上にあり、宇多天皇創建伝承をもつ正方位地割の古利神照寺を中心とする複合遺跡である。県営ほ場整備事業が当遺跡北部にかかるため、事前に試掘及び発掘調査が行われた。試掘調査では、神照寺北方において遺構の存在が明らかになり、発掘調査では、八～九世紀、一二～一三世紀を中心とする大別二時期の柱穴・溝・

土壤等が検出された。木簡は、出土土器より奈良時代後半に埋没したとみられる溝から一点のみ出土している。溝は、検出面での幅〇・八～一・三m、深さ一〇cmを測る素掘り溝で、現在の寺域北縁から北三〇mの地点をN⁷⁴Eの方位に直線的に走るものである。また、この溝に直交する方位をとる素掘り小溝がこの溝の北方で数条検出されている。